

## 幹線バスの再編検討について

### 1 背景・目的

幹線バスについては、鉄道に次ぐ公共交通の基幹軸と位置づけていますが、現在、バス事業を取り巻く環境は大変厳しく、利用者数の減少もさることながら、慢性的な運転手不足が事業継続の大きな問題となっており、これまでのように不採算路線に対して補助するのみでは、路線を維持することができなくなっています。

幹線バスを維持していくため、また、本市の課題の解決を図っていくためにも、地域のニーズとマッチした持続的な公共交通ネットワークをどのように構築していくべきか、路線の見直し検討が必要となっています。

### 2 現状・課題

本市では、鉄道駅や幹線バス停留所から遠く、公共交通利用が難しい地域（公共交通空白地域）の移動手段確保を目的に、支線バス（くるりんバス）の運行を進めてきました。幹線バスと支線バスについては、幹と枝葉のように役割を分担することで効率的な交通網を目指してきました。一方で、目的地のニーズや乗り換え・接続の利便性について、住民から要望が寄せられています。

また、幹線バスについては、利用者の減少等により減便が進んできたことで、利便性の低下に繋がり、利用者の減少傾向が続く状況となっています。特に丸山線においては、現在の運行本数では利用しづらい状況となっています。

利用が限定的な路線において、限られた人的資源を確保し路線を維持していくためには、運行継続に行政が主体的に取り組むとともに、運行の効率化が必要です。

### 3 再編案

別添のとおり

### 4 再編スケジュール（運行開始目標）

路線・運賃協議	令和8年度中
新形態での運行開始	令和9年10月～

### 5 想定されるメリット・デメリット

メリット

- ・ 安定的な運行継続（収支率、効率性についての評価は必要）
- ・ 住民ニーズにマッチした路線設計（特に、くるりんバスとの連携）
- ・ 運賃体系の柔軟性（均一運賃、エリア別運賃等）
- ・ 運行車両の最適化（小型化）

デメリット

- ・ 市街地循環線との乗り換えが必要 → 接続を考慮（蒲郡駅南口）
- ・ 市負担額の増大

